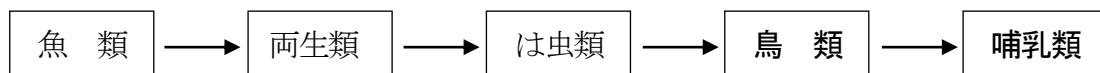


定説も覆る

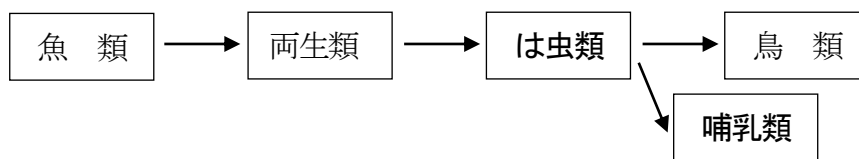
昭和56年4月、大学に入学して、理科、特に地学を専攻した。アルプスやヒマラヤ、ロッキー、アンデスなどの世界的な大山脈の成り方は、「地殻変動」という考え方で説明できると学んだ。しかし、大学3年生の春、在籍していた大学に若手の研究者が教官として赴任され、その教官から「プレートテクトニクス」という新しい考え方を学んだ。世界的な大山脈の成り方はプレートの動きで説明できると学んだ。その当時は、学界で「地殻変動」か「プレートテクトニクス」かで論争が続いていた時代であり、中学校の理科の教科書には、「プレートテクトニクス」に関する考えは、読み物資料として扱われる程度であったと記憶している。

そして、40年以上が経過した現在では、「プレート」という用語が、テレビや新聞のニュースなどで、特別な説明もなく一般的な用語として使われるようになっている。

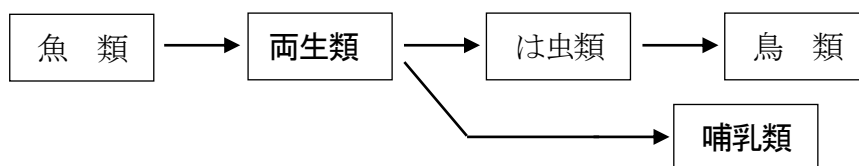
昭和60年4月、中学校の理科の教師になった。その10年前ごろ（今から50年前ごろ）の教科書には、セキツイ動物の進化において、鳥類のなかまから、哺乳類の祖先が出現したと記述されていたらしい。



その後、平成22年（今から16年前）に発行された教科書では、は虫類のなかまから、哺乳類の祖先が出現したと記述されていた。



そして、現在の中学生在が使っている教科書では、両生類のなかまから、哺乳類の祖先が出現したと記述されている。



「プレートテクトニクス」や「セキツイ動物の進化」のように、自然科学の世界では、研究や発見により定説とされていたものが覆されることがある。

自然科学の世界だけでなく、教育の世界でも、同じようなことが起こっている。

40年近く前は、学校に行けないことを「登校拒否」と呼んでいた。その当時と現在では、「学校に行きたくても行けない」児童生徒に対する支援の方法や考え方が、大きく変わってきている。

現在、教育支援センターで「学校に行きたくても行けない児童生徒」の支援をしている。常に、より効果的な支援の在り方を探って、不登校経験者の方の講演会に参加したり、アンテナを広げて情報を収集したりしている。児童生徒一人ひとりの状況を正確に捉えながら、個々の児童生徒に応じた効果的支援を行いたい考え、日々取り組んでいる。

子どもたちが心のエネルギーを満タンにし、新しい世界へとつながっていける支援を続けていきたい。